

もっとJICA海外協力隊を知ろう! 『オンライン座談会・個別相談会』

JICA北陸では、2022年1月15日(土) 14:00~16:10でJICA海外協力隊に関心のある方を対象に、オンライン座談会・個別相談会をZoomで開催します!



座談会では、JICA海外協力隊経験者(3名)を招いて、派遣国での生活や活動経験を通じて得た学びなど、皆さんが思うJICA海外協力隊のギモンについてざっくばらんにお答えします(職種や国の選び方、現地の生活で大変だったこと、活動中の人間関係の築き方や活動方法などなど)。

また座談会のあとには個別相談会を予定しています。応募時の悩みや現地での活動について、もっと話を聞きたい!という方はぜひご利用ください。



○個別相談①15:30~15:50 (5ルーム)

②15:50~16:10 (5ルーム)

※希望者のみ(先着申込)、お一人様1ルームまで参加可能

個別相談部屋の職種(予定)はこちら!

青少年活動/環境教育/小学校教育/野球



JICA海外協力隊に興味のある方や隊員経験者の話を聞いてみたい方のご参加をお待ちしております。詳しくはJICA北陸のイベント情報ページをご覧ください。



イベントの詳細はこちら!

2021年度 帰国したJICA海外協力隊

大田 和哉さん
(石川県小松市)
職種: 体育



青木 彰吾さん
(福井県鯖江市)
職種: 野球



2021年度 派遣中のJICA海外協力隊

富山	富山市3名、射水市1名、入善町1名	合計: 5名
石川	金沢市1名、志賀町1名	合計: 2名
福井	福井市1名	合計: 1名

JICA北陸の 新任スタッフの紹介

坂田 章吉



10月1日に地域連携アドバイザーとしてJICA北陸に着任しました。北陸は祖父の出身地であり、故郷に帰ってきたような思いです。これまでJICAでは、主に水資源、防災分野のプロジェクトマネージメントと資金協力業務に携わり、在外ではエジプト、ヨルダン事務所に勤務していました。これから北陸の皆様との連携を一層強め、皆様と共に、国際協力を通じて北陸、開発途上国の人々がもっと元気になるように微力ながら頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

水口 亜紀



こんにちは! 10月より民間連携事業と草の根技術協力事業の担当として勤務しています。北陸の企業や国際協力団体の方々を持つ優れた技術やノウハウ、ご経験を、必要とする開発途上国の人々へ届けるお手伝いができることをうれしく思っています。青年海外協力隊の経験(派遣国: セネガル、ニジェール、職種: 青少年活動)をいかして、皆さんと一緒に北陸を盛り上げるため頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします!

JICA北陸's World News Letter

2022新春号/Winter

日本では、暦の上で新年を祝うのは1月。ですが、年度の始まりは4月。学校も4月に新学期を迎えます。世界を見渡すと、慣習や宗教などによって、暦の上での新年や学校年度、会計年度などはそれぞれの国や地域で違ってきます。1月24日は、「教育の国際デー」(*)ということもあり、今号では、新年と学校での新年度について長期研修員にそれぞれの国のことについて教えてもらいました。

*2018年に開催された国連総会で、世界の平和と発展における教育の重要性を唱えるために制定されました。

インドネシアでは、信仰によって違いがあるので、特別なことをしない人もいますが、1月1日は祝日で、大みそかには花火大会などのイベントが開催され街は賑やかです。

マレーシアでは、新年を盛大にお祝いします。1月1日は祝日で、大みそかはあちこちでカウントダウンパーティや花火が行われます。

キルギスでは、それまでの1年を振り返り、新しい目標を立てたり、充実した仕事や生活を送れる1年になるよう家族で過ごします。

カンボジアでは、本来のお正月は4月でその時は数日間祝日になりますが、最近では1月1日をGlobal New yearと呼んでカウントダウンパーティなどを行う人も増えています。

ザンビアでは、1月1日は新年を祝うための祝日で、この時期にはこれまでの自分を振り返り、新年に向けた新しい計画を立てます。

明けまして おめでとうございます

С НОВЫМ ГОДОМ
(スノーヴィンゴードム)
ロシア語

Selamat Tahun Baru
(スラマツ タフンバル)
インドネシア語

Happy New Year



マレーシアでは、1月に学校が始まります。日本の教育を知り、マレーシアとの大きな違いは幼児教育にあると気付きました。日本の教育は学力よりも人としての成長に必要なことをたくさん教えていると感じています。

キルギスの首都ビシュケクは人口が集中していて、子どもの数も年々増加しています。ですが、学校の数には十分ではありません。ですので、学校では一クラスが30人から多い学校では40人で構成され、さらに2部制や3部制で授業が行われています。

ザンビアでは、1月に学校が始まります。私は、日本の学校の評価について興味を持ちました。ザンビアでは、小学校でも10段階で評価され、進級するためには学期末のテストに合格する必要があります。

カンボジアでは、学校は10月に始まるのが一般的です。カンボジアの教育には人材や施設が不足しています。また、都市部から離れた地域では、子どもたちが家から学校まで長時間かけて通学することもあります。

インドネシアでは、学校は7月に始まります。日本と同じく制服がありますが、基本的な制服に加え、パティックという伝統的な布の制服もあります。日本の学校に比べるとまだまだ施設などが不足しています。

